

[印象記]

シンポジウム「世界に輝く国際活動」を聴いて

新潟医療福祉大学 医療技術学部 視機能科学科
講師 村田 憲章



学術集会の最後のセッションとして、シンポジウム「世界に輝く国際活動」が開催されました。私は新潟医療福祉大学看護学科教授の松井由美子先生とともに、座長としての役回りを任されました。本シンポジウムでは3名の先生方にご登壇いただきました。

まずは、「空飛ぶ車椅子サークル～車椅子と心を届ける活動～」をテーマに新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科講師の前田雄先生にご講演いただきました。発展途上国における車椅子不足の事情を詳細にお話しいただきました。また、日本の車椅子によって現地の方々が円滑な生活や笑顔を取り戻した事例について話されました。次に、「アフリカ海外医療支援の実情報告」をテーマにツカザキ病院眼科の視能訓練士、石飛直史先生にご講演いただきました。日本では白内障で失明することはまずありませんが、発展途上国では治療が受けられず失明に至るケースが多数あります。そのような地域の方々の視覚を取り戻す医療支援についてご報告いただきました。最後に第九管区海上保安本部新潟航空基地の機動救難士、渡邊翼先生に「メキシコ大地震への国際緊急援助隊派遣～海保救命士として救助チームに参加～」をテーマにご講演いただきました。メキシコの被災地という極限状態の中、人命救助のために奔走した日本の機動救難

士の活動についてのご報告でした。

各先生方の専門職は異なりますが、本シンポジウムでご講演いただいた内容で共通するのは「世界中で真に困窮している方々への支援」という面でした。日本国内においては日常的に行われている医療行為や支援が、発展途上国や被災地の人々の生活の質を大きく転換させ、時には生死に関わっていくということが、3名の演者の先生方からのメッセージであったように思います。どの専門職においても海外での活動は、多くの技術を必要とし、その上各々の責任も非常に重くなると考えられます。そのような中でご活躍される3名の講師の先生方に敬意を表するとともに、新潟医療福祉大学から一人でも多く、志を高く持ち海外活動を目指す学生が輩出されることを願います。



シンポジウムの会場の様子